
次元ヲ渡ル双翼

夜空 悠都

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

次元ヲ渡ル双翼

【Nコード】

N68310

【作者名】

夜空 悠都

【あらすじ】

主人公の水無月 翼みなつき ひとは、繰り返される日々に退屈していた。

…ある日、学校の帰り途中に鍵を拾う。

その瞬間、退屈な日々では考えもなかった長い冒険が始まる。

序章？（前書き）

初めて小説を書くので、誤字脱字や漢字の間違いに矛盾した文章などのミスが多くなるとは思いますが、頑張るのでよろしくお願いします。

・
・
・
感想やアドバイス、誤字脱字などがありましたら言ってください！

序章？

？「ちつ…モンスターですか！」

狼型「ガルルウ」

？「初めての实战だけど、一体ならいけるかな？」

狼型「ガルルウ…ガウ！」

狼型のモンスターが、正面から飛び掛かって来た瞬間に、？は回避しようとして横にステップして、両手に持つてる双剣で斬りつける。

すると、モンスターは光の粒になって消えて、モンスターの居た場所には小石程度の真つ黒な石があった。

？「ふう…これで終わりかな、モンスターとはいえ生き物を気持ち悪いな…。」

と、言いながら真つ黒の石を布製の袋に仕舞った。

・
・
・

僕の名前は、水無月 翼…で、東京に住む高校生だけど今は草原とかでモンスターと戦ってたりしてます。何故こうなったかと言っと数日前にさかのぼる…

数日前

先生「これで、今日は終わりだ…号令」

生徒「起立、…礼」

全員「ありがとうございます！」

翼「今日も退屈だったな…まあいいや帰ろう。」

そう言いながら教室から出て、靴に履き替え校門から出ようとしたら…

？「よっ翼、もう帰るのか？」

翼「ん、今日はもう帰るよ。…暇だしね。」

今話しかけて来たのは、友達をあまり作らない僕のたった一人の友

達で蒼空 海都と言う名前だ。

海都「そうか、あつそうだこの前貸した本読んだか？」

翼「うん、読んだよ。」

海都「アレ、どうだった？」 翼「まあまあ面白かったよ、とりあえずもう帰るね？…本は明日返すよ。」

海都「ああわかった、じゃあまた明日な！」

翼「ん、また明日」

そう言つて海都と別れた。

翼「うくん、暇だしいつもとは、別の道で帰ろうかな。」

それは、ただの気まぐれだった。

いつもとは、違う別の道を歩いていた僕は……

翼「ん、なんだろうアレは……」

…光る何かを見つけた。

翼は、その何かを拾い顔の近くに近づけ見る。

翼「これは、鍵なのかな？…かなり古い物みたいけど。」

その瞬間、古い錆びた鍵が強く光りだした。

その光は、すぐに広がり翼を飲み込む…光が消えた後、そこには誰も居なかった。

序章？

翼「うう…ここ…は？」

翼は、ベットから起き上がり周り見回す。

翼「僕は、いつの間にベットに？…それにここは何処だろう？」

その時、ベットの傍にある小さいテーブルの上に手紙があることに気がついた。

手紙には、こう書かれていた。

『

鍵を拾いし者よ、扉は開かれた。

ゆえに試練を与えよう。

試練とは、この世界の最深部にたどり着く事だ。

この世界は、四層のダンジョンとなつている。

まず、この家がある第一層は、草原が広がる場所だ。

他の層は、自分で見た方がいいだろう。試練に必要な物は、

この家に最低限用意してある。

外に出る前に家にある物を調べてから行くといい。

では、健闘を祈る。

』

翼「これは、誘拐なのかな？…でも、そしたらこんな手紙を残す意味がわからないし。」

ドアに近づき、ドアノブを回すと鍵が掛かってなかった。

翼「鍵も掛かってない。まさか、本当に？…家を調べるしか無いか。」

部屋を出て、家を探索すると、リビングらしき部屋に着いた。

翼「ここは、リビングかな？…それに玄関つばいドアもある。」

部屋を観察していると、目の前に一冊の本が現れた。

翼「うわっ！いつの間に本が、なぜか浮いて…ん？（制服のポケ

ツトが光ってる？」翼が、ポケットに手を入れ取り出すと…鍵があった。

翼「これは、あの時に拾った鍵…あの手紙に、書かれてた鍵ってこれのことかな？」
すると、本がいきなり…

《白翼の鍵を確認、白翼の鍵の封印を解除し、双翼の書の機能の封印を一部解除します。》

と言う機械的な音声が聞こえた瞬間、鍵が変化して白い片翼の装飾が付いた金色の鍵になった。

《この世界に、モンスターを確認。

白翼の鍵の主の戦闘能力測定……測定完了。

戦闘能力0の為、訓練プログラムを開始します。》

翼の周りに、嵐が吹き回ると翼の目の前は、星空とチェス盤みたいな地面しか無い場所に居た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6831o/>

次元ヲ渡ル双翼

2010年11月12日02時53分発行